

トルコギキョウで若手農家を増やしたい！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



(雄勝郡東成瀬村)
横尾 堅一郎(けんいちろう)

経営概況

経営形態 | トルコギキョウ ハウス6棟(約18a)
| 冬期間大根の加工・販売(いぶり大根)
労働力 | 2名(本人、妻)
販売先 | JAこまち ネット販売 産直

東成瀬村に移住して、トルコギキョウ栽培を始めた若手農家を紹介します。村で野菜や花きを栽培している若手は、横尾さんを合わせて3人しかいません。横尾さんは花き栽培の仲間を増やすため、苗の自家採取、栽培面積の拡大や農産物加工を行い健全経営の手本となるべく日々奮闘しています。

▶ きっかけ

宮城県出身の横尾さんは、結婚を機に秋田県内に移住しました。トルコギキョウ栽培に取り組むまでは、大湯村で介護保険関係の仕事をしていました。大湯村の若い人達は、当たり前のように農業を継いでおり、その姿に身近に触れたことや東成瀬村でリンドウ栽培を営む妻の両親への思いもあり、自分も農業をやってみたいという気持ちが強くなりました。

秋田県の「令和2年度未来農業フロンティア育成研修花きコース」に応募し、秋田市の農業試験場、羽後町三輪地区の現地研修を経て、令和4年3月に就農しました。



定植後のハウス内

▶ 取組

国の「就農準備資金」、「経営開始資金」及び「経営発展支援事業」や秋田県の「農業夢プラン応援事業」を活

用し、妻と2人でハウス2棟(6a)からトルコギキョウ栽培を始めました。

トルコギキョウを選択した理由は、国の支援事業の要件から、両親が営んでいるリンドウと違う品目で、冠婚葬祭全般に用いられ、年間を通した需要があるからです。

また、苗の定植から収穫までの期間が3ヶ月であるため、栽培面積を増やしても、ハウスごとに栽培サイクルをずらし、収穫時期が重ならないよう作業計画を調整すれば栽培可能となることから決めました。



1棟ごとに複数の品種を作付け

トルコギキョウは、花を大きくしっかりと育てることが重要で、手間をかけるほど良品比率が向上し、それが単価に直結するので作り甲斐があります。令和5年にハウス2棟、さらに令和6年にハウス2棟を増設し、栽培面積を拡大しました。

▶ これから

現在は苗を購入していますが、苗の良否で良品比率が増減することと経費面を考え、自家育苗を検討しています。



主力品種の「セレブリッチホワイト」

栽培面積の拡大にあたっては、所属しているJAこまち花き部会(会員数30名)のトルコギキョウ500品種の栽培している中で収益に結び付く定番や売れ筋の組合せ情報を参考にしていきたいとのことでした。

また、農産物加工所を設立し、冬期間はいぶり大根等漬物の製造を中心に取り組み、経営の安定化を考えています。



ピンク系の代表品種「セレブピンク中生」

